

フォレストアートフェスティバル in ラダック 2026 ご協賛のお願い

NPO 法人ウォールアートプロジェクトは、2023 年、北インド、ラダックにおいて地元の人々と共に 6100 本のヤナギなどの苗木（成長後、建材として活用される）を植樹し、木を植えることから始まる芸術祭「フォレストアートフェスティバル（FAF）」をスタートしました。氷河の融解、雨量の増大、水害の多発など温暖化の負の影響を強く受ける現地へ、日本からも対策に寄与する取り組みです。

FAF は、アートを媒介にして植えた木々の成長を森になるまで長いスパンで見守ることを目的としており、他に類を見ない活動として、ラダック自治政府も共催として連携しています。2023 年にスタートしたフォレストアートフェスティバルから 2 年が経過し、植樹地では、チベット仏教僧ジャミヤング氏の手で 6000 本余りの木々が成長を続けています。2024 年の FAF では植樹地を見守る 7 つの作品が完成しました。第 3 回目となる FAF2026 では、日本とラダックのアーティストを招聘し、2 週間強の滞在中に、現地の子どもたちへ向けたワークショップとライブペインティングを複数実施します。完成した作品を、2017、23、24 年に制作された 12 の作品と共に芸術祭として展示し、植樹地が森になることを見守る関係人口を拡張していきます。本アートプロジェクトをご協賛で支え森の成長を見守って下さる個人、企業、団体を募集致します。

フォレストアートフェスティバル in ラダック 2026 概要

開催日時 2026 年 5 月 23 日～6 月 7 日

開催地 インド、ラダック連邦政府直轄領、マトー村およびレーのアートスペース LAMO

主催 特定非営利活動法人ウォールアートプロジェクト

共催 Ladakh Arts and Media Organization (LAMO)

協賛 ポーラスター株式会社 有限会社ブルーベア ツオモリリ文庫

■ご協賛額（個人） 一口 1 万円

【特典】

- ・フォレストアートフェスティバル in ラダックのウェブサイトにてご氏名を Sponsor として掲載致します。
- ・植樹地に社名、団体名を記載するネームプレートを設置致します。

参考：ネームプレート例と植樹地の様子 <https://youtu.be/ooxKkOpgl1A?si=jouNeFSPqJc35baK>

■ご協賛額（企業、団体、個人） 一口 3 万円

【特典】

- ・フォレストアートフェスティバル in ラダックのチラシ、ポスター、ウェブサイトにてロゴ、もしくは個人名、社名、団体名を Sponsor として掲載致します。
- ・植樹地に社名、団体名を記載するネームプレートを設置致します。

参考：ネームプレート例と植樹地の様子 <https://youtu.be/ooxKkOpgl1A?si=jouNeFSPqJc35baK>

■5 口以上のご協賛（15 万円～）

【特典】

- ・上記特典に加え、ドキュメンタリー映像にロゴを掲出致します。

参考：FAF2024 ドキュメンタリー映像 <https://youtu.be/RqR8e9GE3-I>

お申し込み・お問い合わせ

wallartproject2010@gmail.com (担当 浜尾和徳)

特定非営利活動法人ウォールアートプロジェクト 団体概要

[団体設立] 2009 年 7 月 法人格取得 2011 年 10 月

インド及びその他の国の学校などでアートフェスティバルを開催するなど、子どもたちの文化的活動のサポートに関する事業を行い、国際文化交流に寄与することを目的とする。インド、日本各地で地域のリーダーと協働し、学校と地域を舞台にした国際的芸術祭を開催している。2～5組のアーティストが滞在制作し、地元の人々が気づいていない現地の魅力を掘り下げ伝える作品を制作し、芸術祭にて無料公開。地域に内在する教育格差、カースト制度、経済格差、過疎化などの課題を乗り越える力となるアイデンティティを養い、エンパワーメントを目指している。2010 年より現在までに芸術祭を 20 度開催し、70 の壁画と 46 のインスタレーションが生み出された。アーティストは現地の子どもたち、人々に強いインパクトを残すことができる国際的に第一線で活躍する人物や、新進気鋭の若手を招聘し、それぞれの状況に相応しい作家をディレクションしてきた。また日本人のコーディネーターが中心となり現地の人々と実行委員会を組織。累計 400 人を超える日本人ボランティアチームが渡印し、現地の人々と芸術祭を作り上げる中でインド、日本両国の相互理解と交流を深めている。2023 年より「木を植えることから始める芸術祭フォレストアートフェスティバル」をスタートし、活動の幅を広げている。

[助成採択歴]

- ・国際交流基金(2010、11、12、13、14、17)
- ・朝日新聞文化財団(2011、14)
- ・双日国際交流財団(2011、12、13、14、16)
- ・東芝国際交流財団(2012、13)
- ・今井記念海外協力基金(2012、13、14)
- ・ポーラ美術振興財団(2013、14、17)
- ・野村財団(2015)
- ・東京都歴史文化財団アーツカウンシル東京(2016、17、22、25)

以下、ウォールアートフェスティバルふくしま in 猪苗代実行委員会、猪苗代アートプロジェクトとの共催事業において

- ・福島県地域創生総合支援事業(サポート事業) (2018、19、20、21、22、23)
- ・福武財団(2023)

[後援名義取得歴]

- ・在インド日本国大使館
- ・在ムンバイ日本国総領事館

[ワークショップ歴]

- ・駐日インド大使館、猪苗代アートプロジェクト、赤穂アートプロジェクト、府中市市内小学校、調布市市内ほか多数

招聘アーティスト

富松篤（彫刻家）

2024 年にラダック、マトー村の流木で制作したヤク像「導きの森 The Guiding Forest」は、今現在も植樹地の真ん中で木々の成長を見守り、そこを訪れる人々の注目を集めています。この度の FAF では、村の公立学校の協力を得て、子どもたちへのワークショップを開催。村を流れる川で収集した流木を利用し、参加者全員で一体の生き物を作ります。完成後は植樹地に設置して、ヤクと同様、植樹地を見守る存在となります。



プロフィール

1985 年和歌山県生まれ。彫刻家。東京造形大学大学院造形研究科修了。木彫の人物像を中心に制作。2016 年宮城県石巻に制作拠点を移す。牡鹿半島の浜に漂着した流木の造形に惹かれ、流木を用いた作品を制作。

主な個展、グループ展

- 2025 富松篤 個展「森のまなざし」（ツォモリリ文庫 / 東京）
- 2025 Baggat Art Exhibition 2025（韓国）
- 2024 富松篤 個展「森に還る日」（ツォモリリ文庫 / 東京）
- 2023 富松篤 個展「想起するかたち」（GALVANIZE galley/ 宮城）
- 2021 富松篤 個展「漂着する存在の記憶、かたち」（GALVANIZE galley/ 宮城）

芸術祭

- 2025 阿久根うみまち芸術祭 （鹿児島）
- 2024 Forest Art Festival in ラダック 2024（ラダック / インド）
- 2023 信濃の国 原始感覚美術祭 -2023 山のしずく、ささなみの水（木崎湖 / 長野）
- 2022 第 5 回かがわ・山なみ芸術祭 2022（綾川町 / 香川）
- 2019 Reborn-Art Festival 2019（石巻のキワマリ荘 / 宮城）
- 2017 Reborn-Art Festival 2017（荻浜小学校 / 宮城）

招聘アーティスト

浅井裕介（美術家）および地上絵制作チーム

2024 年に植樹地を見守る存在として制作した全長 280 メートルの地上絵は、現地で建材として使われている日干しレンガに、祈りのチョルテンなどに施される石灰水をかけて白い姿を浮き立たせています。チョルテンは年に一回塗り替えることからわかりますが、地上絵も風雪の中、次第に色をなくしていきます。人々に愛される存在となっている地上絵は、2 年に一回の割合で人々の手を入れ、蘇らせます。同時に浅井氏の指導のもと、布絵のワークショップを開催。現地の土を使って制作された布絵の地上絵をさらに拡張し、新たな姿を登場させます。



地上絵となる布に土の絵の具で描くワークショップの様子。浅井氏と現地の子どもたち。

プロフィール

1981 年東京都生まれ。滞在制作する各々の場所で採取された土と水を使用し、動物や植物を描く「泥絵」や、アスファルトの道路で使用される白線素材のシートから動植物の形を切り出し、バーナーで焼き付けて制作する「植物になった白線」など、条件の異なっただけの場所においても作品を展開する。

インドの学校を舞台にした「ウォールアートフェスティバル」やアメリカ、フィンランド、中国など多数の国際舞台で活躍。

近年の主な個展

「浅井裕介展 星屑の子どもたち」（金津創作の森美術館、2024 年）

「横浜美術館 新収蔵作品特別展示 浅井裕介《八百万の森へ》」（横浜美術館、2024 年）

「浅井裕介—絵の種 土の旅」（箱根彫刻の森美術館、2015-2016 年）

近年の主なグループ展

「積層する時間：この世界を描くこと」（金沢 21 世紀美術館、2025 年）

「開館 30 周年記念 MOT コレクション 9 つのプロフィール 1935→2025」（東京都現代美術館、2025 年）

「岡本太郎に挑む 浅井裕介・福田美蘭」（川崎市岡本太郎美術館、神奈川、2024 年）

「A Spirit of Gift, A Place of Sharing」（ハンコック・シェーカー・ビレッジ、マサチューセッツ、2022 年）

「芸術在樵山—広東南海大地の芸術祭」（平沙島、広東、2022 年）

2019 年、横浜文化賞 文化・芸術奨励賞を受賞。

招聘アーティスト

小栗千隼（漫画家）

2017 年にマトー村周辺の子どもたちと壁画「ワイルドローズ」を完成させた漫画家の小栗千隼氏。多くの村人の記憶に残るアーティストである彼が、今年度は、同じ学校の他の教室に子どもたちとおしゃべりしながら、小栗氏の持ち味である宇宙的なイマジネーションが広がるライブペイントを実施。たくさんの子どもたちの想いがそこに込められ、植樹した木々が森となり、広がっていくような壁画を完成させ、FAF をよりインタラクティブなアートプロジェクトにしていきます。



↑公開制作で描かれた壁画。下描きをせずに即興で、増殖させるように描く

プロフィール

おぐりちはや Chihaya Oguri

1992 年生まれ。漫画家、イラストレーター。2014 年「少年サンデーウェブ」にてデビュー。2021 年には新潮社刊「月刊コミックバンチ」漫画賞にて奨励賞を受賞。手書きを駆使した丁寧な絵作りに定評がある。近年は漫画という枠組みに囚われることなく、独自の世界観を即興で描く壁画やライブペイントを手がける。著作に「スーパーセカイ人 1~3 巻」、ガザ支援漫画「あの街に捨てたしっぽのはにゃし」、「はきちがえる自由」、「田舎コミュニティエクスタシー」。

2025 個展「スーパーセカイ人」（ツォモリリ文庫 / 東京）

2024 2 人展「異世界散歩」（ツォモリリ文庫 / 東京）

招聘アーティスト

花田千絵子（ダンサー）

2024 年の FAF で、標高 3800 メートルの高所であるにもかかわらず、植樹地でダンスを披露した花田千絵子氏。ラダックの伝統的な動きを取り入れたダンスが現地の人々の心に残っています。同時にマトーの学校でダンスのワークショップを開催し生徒たちと交流も果たしました。この度は、顔見知りの子どもたちとともに振り付けを考えることからスタートし、浅井裕介氏の地上絵とコラボレーションする団体の踊りを FAF 当日に披露します。

プロフィール

北九州出身。6 歳より 18 歳までモダンバレエを黒田呆子に師事。第 4 回北九州&アジア全国洋舞コンクールにて文部大臣賞受賞。学生時代は韓国・朝鮮伝統芸能グループノリパン（名古屋）にて杖鼓と伝統舞踊を学ぶ。雲南芸術学院にて少数民族舞踊を学ぶ。帰国後、コンテンポラリーダンス作品や演劇作品に出演。

2003 年 ノリパン『祝祭の大地から』（名古屋公演）

2004 年 ノリパン『ちくさノリマダン』（名古屋公演）制作・出演

『祝祭の大地から』（ソウル公演）制作・出演

2007 年 北九州芸術劇場ダンスラボ 2007『迷路のつくりかた』（振付・演出：高橋淳 junjunsience）

2008 年 紫川水上劇場『紫・まれびとエビスー紫川物語ー』客演

2009 年 horamiri『月の沙漠』客演

2010 年 北九州のコンテンポラリーダンスカンパニーhoramiri 所属、ダンス作品を制作し始める。

<http://t-etc.net/horamiri.htm>

2011 年 セッションハウス Theater 21fes vol.85 にて作品発表

2019 年 yojik と wanda『ナイトレイン』収録ジャイアントパンダの PV 出演

<https://youtu.be/yZNNqFfFsWE>

10 月 Cafe Muriwui にてソロ公演《SOUP》開催

2021 年 3 月 Cafe Muriwui にてソロ公演《砂の詩》開催

8 月ツォモリリ文庫にて《月三草》展示会クロージングイベントに出演

参考映像

フォレストアートフェスティバル 2024

植樹地でのパフォーマンスより

https://youtu.be/Z2IOg_2yKZw



招聘アーティスト

あんどさきこ（音楽家）

瀬戸内海にある人口 15 人の志々島に暮らすあんどさきこ氏と、そこで生活を共にした町田紗記氏（画家）のユニットが制作したアニメーション作品「境界を飛びこえて」。その上映や、ライブペイント、音楽といったアート行為を通じて、動植物と人間の境界、生と死の境界を飛びこえ、私たちもいきものであること、いつか土に還ることを伝えます。それは私たちが直面している異常気象や人間同士の分断への一つの解となり、木を植えることからスタートした FAF の根本にある思想を体現します。

また、あんどが主導する 8 組のアーティストとの共同作品「死の絵本」の原画展を開催します。（詳細 P14）

あんどさきこ

瀬戸内海の志々島に在住。うたをうたっている。美術家とのパフォーマンスコラボレーション多数。

浅井裕介（金津創作の森美術館 2024）、水川千春（はじまりの美術館 2024）ほか



上映するアニメーションの一部



ライブパフォーマンス映像



↑ あんどさきこ、町田紗記のライブパフォーマンスより抜粋

招聘アーティスト

ジャミヤング・ドルジェイ（美術家）

遊牧民のテントで生を受けたジャミヤング・ドルジェイ氏は、2025 年 4 月に来日し、遊牧民と家畜、野生動物との濃密な関係性を、イメージーションあふれる絵画作品を通じて伝えました。近代化とともに故郷のラダックでも徐々に失われつつある遊牧民の感性を、壁画にして伝えます。その壁画の中で、近年激減している遊牧民の方のお話に耳を傾けるパフォーマンスを開催します。



招聘アーティスト

内田英恵（ドキュメンタリー映像制作）

ドキュメンタリー作家として独自の視点で現代の表象を捉えている内田英恵氏は、FAFに興味を持ち、単に記録映像を撮ることにとどまらない、環境問題や社会問題の観点から独自のアプローチをし続けています。2024年のドキュメンタリー映像を完成させたあとも、2025年度に来日し「ラダック遊牧民の視展」で作品を発表したラダックアーティストの言動を追い、さらに、今年度のFAFの継続的な撮影と映像制作発表に意欲を燃やしています。

1981年東京生まれ。専門学校にて映像、写真、デザイン、ウェブなどのマルチメディア・アートを学んだ後、2002年に渡米。The Art Institute of California-Los Angelesにて更に映像と写真を学びながら映画・映像制作の現場に参加。帰国後制作会社に入社、長編映画を始め、ドキュメンタリー、ミュージックPV、TVコマーシャル、企業VP、記録映像、ライブDVD、映画特典DVDなど大小様々な作品に携わる。他に業務として洋画の買い付け、映画企画・脚本などの日英翻訳も担当。5年の勤務を経て2011年に独立。

代表作に『世界は布思議～布のおはなし～』シリーズ（後にWOWOW番組化）、長編ドキュメンタリー映画『あした生きるという旅』（SKIPシティアワード受賞他複数の映画祭にて受賞・入選）、他に『こども哲学-アーダコーダのじかん-』、短編作品『動かない体で生きる私の、それでも幸せな日常(短編)』など。

受賞歴

Yahoo!ニュース「ベスト エキスパート 2024」ドキュメンタリー部門グランプリ受賞(日本)

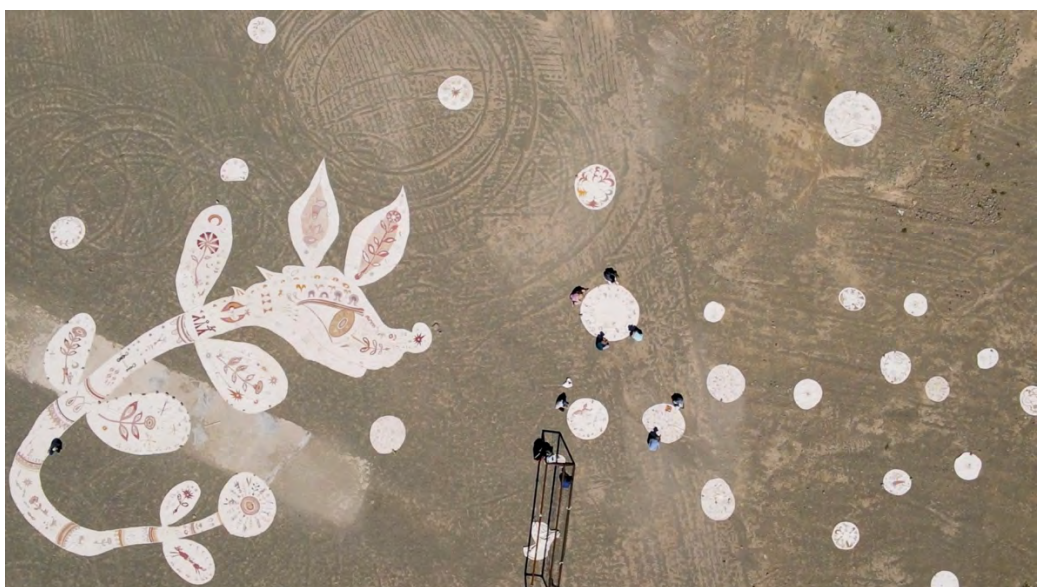
アラウンドフィルムズ国際映画祭 ベストドキュメンタリー受賞(フランス)

マトー村での展示作品

浅井裕介「大地の星座 風の王の使い」 FAF2024



浅井裕介「大地の星座 土の王の使い」 FAF2024



浅井裕介「大地の星座 水の王の使い」 FAF2024



富松篤「導きの森」 FAF2024



富松篤「見つめる山」 FAF2024



香川大介「またここへ還る」 FAF2023



香川大介「人の巻」 FAF2024 4m の絵巻物



ウィエダ兄弟「Little things」 FAF2024



ウィエダ兄弟「Spring of Ancestors」 Earth Art Project 2017



アンプ・ヴァーキー「SKYWARD」 Earth Art Project 2017



小栗千隼「ワイルドローズ」 Earth Art Project 2017



LAMO (Ladakh Arts and Media Organization) での展示作品

浅井裕介「壁画」2017 地元のアーティストをはじめとした 20 人とのワークショップで制作



「死の絵本展」

町田紗記とあんどさきこによるスピノフ展。町田&あんどユニットによるアニメーション「境界を飛びこえて」を LAMO でも上映します。そして、あんどの死生観を表現した言葉に、8 組のアーティストが絵を描き絵本にする「死の絵本」の原画展を開催します。展覧会開催中、死の絵本のことばに沿った小栗千隼氏によるライブペイントも実施します。

[死の絵本参加アーティスト]

浅井裕介、大小島真木、香川大介、コタケマン、はまぐちさくらこ、町田紗記、水川千春、ウィエダ兄弟

フォレストアートフェスティバル 2024 ドキュメンタリー映像

<https://youtu.be/RqR8e9GE3-I?si=LZa3QSKO6u5ODKtU>



共催団体 LAMO (Ladakh Arts and Media Organization) について

1996 年、モニシャ・アフメッドとラヴィナ・アガルワルがラダックの芸術と文化を学び、創造し、関わることをできる拠点として LAMO を設立。LAMO は、レーの旧市街に残っていた歴史的な建築物を伝統的手法に則り改修したアートセンターを拠点とする。人々がラダックの芸術と文化を学び、創造し、関わることでできる環境づくりに取り組む。アーティスト・イン・レジデンス、展覧会、上映会、講演、パフォーマンス、ワークショップ、研究、記録活動を通じて、ラダックにおける芸術活動を主導する存在である。また、センターの図書館、映像アーカイブ、地域の知識資源を通じて、ラダックの歴史的・文化的資料に関するオープンデータベースを構築する。シルクロードの一部であったラダックに暮らす多様な背景をもつ人々同士が、また、インド本土、国外からの旅行者がつながり、グローバルな文脈の中で芸術へのより深い理解を促す場として機能している。

[受賞歴]

2018 ユネスコ・アジア太平洋文化遺産保存賞において「優秀賞 (Award of Distinction)」受賞

2019 「ベスト・イン・ヘリテージ」会議(クロアチア)において「Project of Influence」受賞

FAF2024 メディア掲載参考資料

NEWS18 <https://youtu.be/xA6ZM2xIaow?si=XPR5o7rvSbaFb1wf>

Reach Ladakh https://youtu.be/_r5-DfCKKBU?si=cy_M_mkGvUN5z6P

再生回数合計 13896 回(2025 年 11 月 30 日現在)